

## 高校3年生

# 生き方を探る ～My Career～

佐藤俊樹・川合勇治  
仲田恵子・杉本雅子  
原英俊・福谷敏

**【抄録】** 附属中・高等学校における6年あるいは3年にわたる、総合人間科をはじめとする様々な経験に基づき、自分の進路と生き方を考えた。生徒たちはフィールドワーク・学外講師との交流・スピーチなどの活動に取り組むことで「キャリア」意識を高め、主体的な進路選択ができるようになった。

**【キーワード】** フィールドワーク 学外講師 スピーチ 学び合い キャリア 主体的な進路選択

### 1. はじめに

高校3年生の総合人間科の大テーマは「生き方を探る」である。1995年度のスタート以来各学年の大テーマ設定は一貫している。特に高校3年生ではここ3～4年、大テーマ名だけでなく取り組みの内容もルーティンワーク化してきており、成熟を迎えた感もある。また、今年度の高3は中学入学時から総合人間科を体験してきた2年目にあたり、中高一貫という観点でキャリア形成を考えられるような蓄積もできつつある実感を持つようになった。

### 2. 学年の目標

学年テーマの主旨に基づき、また、高校2年生までの個人研究やグループワークで培った総合的な問題意識や社会認識も生かして、一人ひとりが主体的に進路選択できることを目指す。また、進路問題を個人の問題とだけにはせず、20名程度のグループ内で検討し、お互いに問いかけ、学び合うことによって、より強く認識できるようにする。

### 3. 1年間のあゆみ

- (1) 4月9日 年間オリエンテーション  
進路希望別グループ分けアンケート実施
- (2) 4月16日 進路希望調査
- (3) 4月21日 グループ分けおよび担当教官発表  
グループ名およびリーダー決定
- (4) 5月19日 フィールドワーク準備、外部講師検討
- (5) 6月2日 フィールドワーク準備、外部講師検討
- (6) 6月7日 フィールドワーク：木曜の第5、6限

翌週の国語表現の時間に礼状書き

- (7) 6月16日 フィールドワーク報告会  
学外講師講話グループ分け
- (8) 6月30日 学外講師講話実施  
中1もオブザーバー参加
- (9) 7月7日 自己評価と感想  
9月以降の説明  
集録とスピーチのガイダンス
- (10) 9月29日 スピーチ原稿・集録原稿執筆（Ⅰ）  
国語表現の授業とタイアップ
- (11) 10月6日 スピーチ原稿・集録原稿執筆（Ⅱ）
- (12) 10月20日 グループ内スピーチ  
各グループから代表3名を選出
- (13) 11月17日 学年全体スピーチ
- (14) 12月15日 卒業論文（研究集録）原稿完成  
国語表現の授業とタイアップ  
2月21日 研究協議会：代表者による座談会

### 4. グループ分け

テーマが「生き方」であるため、当然学習形態は個人研究が主体である。ただし、生き方を探る営みを個人の中だけで終結させず、同じような系統の進路希望を持つ者どうしで学びあうことで、自己を客観的にとらえるような場を与えるため、担当教官の人数にしたがって6つのグループを設定した。各グループの人数は16～19名で、2時間の活動時間内に1人あたりの持ち時間が5～7分となり、ちょうどスピーチや報告をするのに適当なサイズであった。

系 統	グループ名
①人文科学系	GLOCAL
②社会科学系	がんばってもがんばっても日本人
③農学・医学・薬学系	ベクトル→
④理学・工学系	HERO
⑤家政・教育・心理系	ももぐみ。
⑥芸術・体育・公務員系	P. A. S.

## 5. フィールドワーク

6月には例年どおりフィールドワークを行った。1ヶ月前からアポイントとりを行い、自分の進路目標に関係のある訪問先を決定した。なかには学年の指定したフィールドワーク日（6月7日）に相手が都合が悪いということで、休日の土日にわざわざ出かける生徒もみられた。なお、フィールドワークに先立ち6月2日の総合人間科ではフィールドワーク先報告会を開き、各グループ内で一人ずつ自分の行き先とその目的、どんな話を聴いてくるかなどをスピーチし、アドバイスし合うという試みを行った。

前掲のキャリアアンケート報告でも触れてあるが、高校3年生が自分の将来を考えるうえで何年生の総合人間科が役立ったかという問いに対して、55%もの生徒が高校3年生と答えた。これで最後となるフィールドワークを過去の総合人間科の集大成と位置づけ、自分の進路を考える大きなきっかけとしたいという前向きな姿勢がうかがえる。

### 訪問先一覧

#### ①人文科学系

訪 問 先
南山短大庶務課
名古屋市立大学人文社会学部
名古屋大学留学生センター
愛健はり接骨院
大同工業大学教職課程田中裕巳氏（旧教官）
椎カンパニー広報部
濱接骨医院
中京大学入試渉外部
南山大学院生
南山大学文学部人類文化学科
栄光産業

#### ②社会科学系

訪 問 先
(株)豊福組運輸
椎カンパニー広報部
中京大学入試渉外部
(株)カネマサ商店事務総合部
名古屋経済大学法学部
国際連合地域開発センター
祖父
大同工業大学教職課程
名大法学部
父（骨董品店）
大須古着商ジムノペディア
東邦学園大学経営学部教務課
名大法学部
愛知学院大学法学部学生

#### ③農学・医学・薬学系

訪 問 先
ダクタリ動物病院
名古屋大学工学部
名古屋市立大学病院外科
はるか薬局
メイトウホスピタル
さくらキンダー学園
愛知県警科捜研
名大教育学部心理社会行動
椋山女学園大学生生活科学部
農業センター園芸主査
愛知県警本部鑑識広報課
シネマスコーレ
松下歯科医院
愛知牧場
国立名古屋病院精神科
大工

#### ④理学・工学系

訪 問 先
ECC外語学院
愛知教育大学数学教室
名大先端技術共同研究センター
名大保体センター
名大地球水循環研究センター
名工大工学部知能情報システム
栄光産業
三重大工学部分子素材学科
愛知教育大学学長
名大工学研究科航空宇宙工学

米田整柔専門学校
鹿島建設島中昌武氏 (NTTビル工事事務所)
道家秀男建築設計事務所
名古屋港水族館

⑤家政・教育・心理系

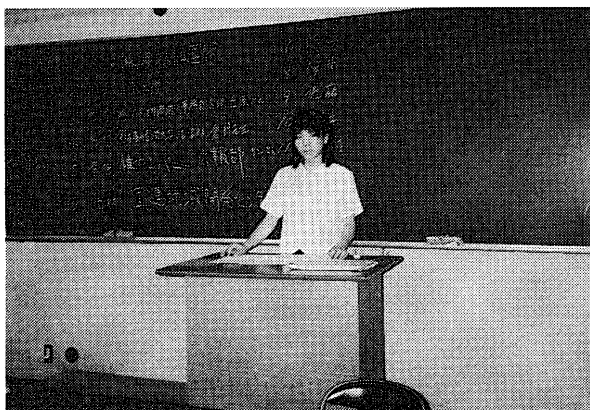
訪 問 先
大須古着商ジムノペディア
中京大学心理学部長
ライブ企画制作会社Beat
南山大学院生
中京女子短期大学教学課
名古屋女子大学家政学部
愛知教育大学美術科
愛知県立芸術大学
さくらキンダー学園
名古屋市立大学人文社会学部
鶴舞中央図書館児童奉仕担当
名大教育学部心理社会行動
愛知教育大学障害児教育
仏料理ル・プランタン店長
港保育園

⑥芸術・体育・公務員系

訪 問 先
愛知県スキー連盟スキー指導員
名古屋港管理組合総務広報係
鹿島建設 (NTTビル工事事務所)
瀬戸北高校滝口恵子氏 (本校旧教官)
ピアニスト
イベントプランナー
道家秀男建築設計事務所
名古屋市消防局総務部
中京大学体育学部
名大保体センター
権カンパニー広報部
愛知県警察本部広報課
中京大学入試渉外部
名古屋音楽大学

フィールドワーク報告会

6月16日には各グループごとで報告会を行った。質問時間を含めて1人4分を持ち時間とし、自分が発表していないときは他生徒の発表のまとめを用紙に記入するという学び合いを行った。また、全員の発表後には自己評価も行った。



6. 学外講師特別授業

6月30日には、本校の卒業生や異業種交流会“TMC”の会員の方などをお招きして、1時間から1時間30分ほど、それぞれの職業に関する説明や就職するまでのプロセス、高3生として持っておくべき心構えなど、通常の学校生活からは得がたいお話をうかがうことができた。

来ていただいた講師の人数は11名で、職業は公務員や会社員、看護婦、研究者など多岐に渡った。生徒は自分の進路希望に合わせて講師を選び、若干の人数調整を行ったが、講師一人につき4~19名とややばらつきが生じた。なお、今年度は大テーマが同じ「生き方を探る」である中学1年生から一緒に参加させてほしいとの申し出があり、質問はできないオブザーバーという形式で受け入れた。高3向けの話であったために中1には難しくて気の毒であったという講師が多かった反面、中1の真剣な聴く態度に感心したという方もおられたのが印象的であった。

高校3年 総合人間科 生き方を探る ~My Career~

生き方についての交流会 学外講師紹介

	番	系 統	学外講師の方とプロフィール	
杉本グループ	1	国際/留学	樋口さん	アイシン精機勤務 海外出張の経験多数あり 「世界が活動のフィールドとなる」のタイトルで講話
	2	旅行/企業人	平出さん	近畿日本ツーリスト勤務 沖縄研究旅行添乗

佐藤グループ	3	法学／公務員	宮寄さん	愛知県庁勤務 法学部卒 大規模土地開発の調整、児童館建設支援、 中部新国際空港などに携わる
	4	経済／企業人	高崎さん	名鉄勤務 商学部卒 リトルワールド、愛知万博対策室、新空港対策室 名鉄不動産などを歴任
仲田グループ	5	心理／教育	速水先生	本校校長 教育学部教授 心理学と教育に関するお話
原グループ	6	工学／公務員	宮木さん	名古屋市役所勤務 大学院工学研究科卒 建築学が専門。「名古屋新世紀計画2010」策定 環境局施設部主管&名古屋港管理組合建設部併任 講話タイトル「名古屋のまちづくりに生きる」
	7	工学／企業人	島内さん	三菱重工勤務 大学院航空工学専攻卒 ヘリコプタ用エンジン開発 話タイトル「航空機エンジン開発の夢が実現するまで」
	8	コンピュータ	副島さん	本校卒業生 メルコ株式会社経営企画部勤務 元プログラマー パソコンを使ったプレゼンやります
福谷グループ	9	農学	田中さん	本校卒業生 本年度高1の授業に講師として参加 大学院農学研究科卒
	10	看護／医療	太田さん	八事日赤病院看護婦 看護婦だけに限らず医療現場のお話をさせていただきます
川合グループ	11	芸術／福祉	舟橋さん	本校卒業生 特殊教育科（音楽）卒 音楽療法・美術療法を行う児童福祉施設「恵泉館」館長 本校中学合唱コンクールで審査委員長の実績あり

### ・分科会選択の注意

原則的に太線の枠の中のグループから希望する分科会を選んでください。

どうしても聴きたい話があれば最低限の移動を認めます。

人数の関係で第2希望にまわってもらうこともあります。

### 生徒の感想

#### ①樋口さん

筆者：M. M. さん  
私達はアイシン精機の第一営業部で働いていらっしゃる樋口さんの講義をきいた。樋口さんは高3の時に留学したあと日本の大学へ進学、経営や経済のことを学んだ。大学では軟式野球部に所属し、上下関係や一つのことを成し遂げる喜びを学んだようだ。就職してからも自立心、向上心を持ちつづけ、現在の夢は海外駐在員になることだそうだ。そんないつも前向きな樋口さんは、最後に私達にこうおっしゃった。『良識があり、母国語を大切にする人になってほしい。そして日本人として、日本の文化や歴史を学んでください。あと、心にゆとりがないと人に優しくなれないから、余裕を持ってください。』欧米化が加速する日本で、日本人としての誇りを持ち、常に前向きに生きている樋口さんは、私達に大切なことを教え

てくださった。これからも樋口さんは世界を舞台に活躍し続けるだろう。

#### ②平出さん

筆者：M. K. さん

#### 人物

平出昌広さん 2児の父で車好き。

近畿日本ツーリストに勤務。

3人1チームのチーフ。

#### 仕事

“旅行”という遊びと“思い出に残るもの”を売っている。

#### 話の内容

- ・この仕事にしたきっかけ
- ・仕事内容
- ・苦労話
- ・大学のサークルでの活動を通して、平出さんが得たものについて。
- ・今までの経験を通して平出さんが“大切”だ

と思うことについて。

感想

普段ではなかなか聞くことのできないお話ばかりで、2時間がとても短く感じた。このお話を今後の進路決定に大いに役立てていきたいと思う。

③宮崎さん

筆者：M. S. さん

地方公務員の宮崎さんは、「今までの公務員とこれからの公務員」という題で、公務員の仕事についてお話をしてくださった。

まず、公務員は一般的に事務職と技術職の二種類に分けられる。そして、様々な部局でそれぞれの仕事をこなしている。

今までは、「行政＝公共」という図式が成立していた。公共事業はすべて行政が担当してきたが、質の低下や採算がとれないなどの理由から、民間企業も事業に参加できるようになってきている。現在は、公共事業は行政・民間・NPO（非営利組織）が相互に協力しながら行っている。

この先は、政府が打ち出している行政のスリム化で、近くの地域で合併することもありうる。前記したように、民間とも一緒に仕事をするので、いわゆる『お役所』というものが変わりつつある。だから、公務員になるには法律だけでなく、たくさんのお話を学び、柔軟な思考力が必要だ、とおっしゃっていた。

④高崎さん

筆者：T. T. くん

6月30日にお話を伺った高崎さんは、現在、名鉄不動産におつとめしている方です。高崎さんは私達にくわしく経歴を紹介してくださったあと、現在関わっているプロジェクトの内容をうまく使って、商売、経済、経営、開発がどういふことなのかとか、重要なポイントをいくつか教えてくださいました。

まず一つ目は、いいもの、おもしろく楽しいものを作っても、もうからなければ意味がないということ。二つ目は一生懸命やっていれば、つまらないと思っていることからでも得るものは必ずあるということ。三つ目は、いつもやりたいと思っていれば、いつかきっとその仕事にたどり着くことができるということでした。この三つのお話はとても印象的でした。

このような貴重なお話を聞くことができ、本当によかったと思いました。今回の体験を活かして、将来に役立てたいと思います。

⑤速水先生

筆者：W. H. さん

今、心理学とか、カウンセラーなどがいろんな場面で注目されている。速水先生は私たちにわかりやすく心理学のお話をしてくださった。

心理学は幅のある学問で、人間の関わることはすべて心理学の対象で、「あれかこれか」という断定的結論はない。先生は心理学が本当に楽しいと思い始めたのは、大学2年生の時だそうだ。それまでは具体的に何になりたいのは不明だったと聞いた。

今、進路について悩んでいる人も多いのではないだろうか。自分が将来なりたいたいのかわからなかった先生のように。

しかし、時間がかかっても自分の本当にやりたいことがわかったら、そこからは将来のことが見えてくるのではないだろうか。だから大学に入ったり社会に出たり、まず何かを始めることが大切ではないかと思った。

⑥宮木さん

筆者：A. F. くん

宮木さんは建築学科を出たあと研究室で都市計画を学んだ。そして、現在は名古屋市役所に勤めている。そこでは名古屋市環境局施設部と名古屋港管理組合総合開発室で、2つの仕事を受け持っている。具体的には藤前干潟に代わるゴミ処分場の候補地を検討し、環境への影響を調査したり、失われた干潟を取り戻すために人工干潟の実験をしている。

技術系職員は、「誇りと愛着の持てる名古屋」を目指して、土木、建築、造園、機械、電気、応用化学などの仕事に就き、21世紀の名古屋のまちづくりを行っている。また、これからの公務員は好奇心を持ち、前向きで意欲を持つことがのぞまれ、人と接することも多いため、信頼関係を築くことが一番大切なことである。

⑦島内さん

筆者：R. F. さん

島内さんは、1982年4月に三菱重工業名古屋航空機製作所に入社、以来航空機用のエンジンの研究開発に従事していらっしゃいます。今回の講義では、「航空機エンジン開発の夢が実現するまで」というタイトルでお話ししていただきました。

島内さんは、1998年に10人乗りのヘリコプター用のエンジンを開発なさいました。その開発中には、色々辛いことももちろんあったそうです。技術開発のプロジェクト、ものづくり、と言及されるものは、技術者にとって当然のことですが、そ

これは実に過酷なものです。ノイローゼ、精神疾患に陥る人、なかには自殺してしまう人もいます。島内さんは技術者にとって必要なことは、粘り強く考えること、楽天的であること、前向きであること、独創性があること、そして最も大切なのは逃げないことだとおっしゃいました。島内さんはこれをモットーに、日々、研究に励んでいらっしゃいます。

⑧副島さん

筆者：K. A. くん

「今日はね、曇っていたからね、車で来ようと思っていただけ、残念。」と、いきなり場のムードを盛り下げた副島さんだったが、会社に対する熱い思いの前に私達は打ちのめされました。「最近の新入社員は態度が悪いなあ、僕たちの頃とはだいぶ違うね。」と、軽快なトークで私達を楽しませてくれました。ここから本題。「ウインドウズができる。マックができる。こんなもの『あっそー』の世界ですよ。」と、きつめのお言葉。大変ありがたいお言葉でした。しかし、そんな副島さんの背中には淋しそうでした。私達に何かを訴えたかったのでしょうか。

最後に、ありがとうございました。副島さんは自分を犠牲にしてまで私達にその熱い思いを伝えてくれました。

⑨田中さん

筆者：S. I. さん

名城大学農学部出身（今年3月卒業）  
大学、大学院と合わせて10年間いた。  
農学部＝「食」「植物」というイメージをもっていた。植物に興味があったので進んだ。

〈話の内容〉

－学部－

基本的な考えを学ぶ

一般的な知識の習得

専攻に応じた研究テーマを設定（→卒論）

－研究室－

興味の対象 実際にできること（1 or 2年）

－大学院－

もっと研究したい人

就職したくない人のパターン

－就職－

専門・専攻のものとは無縁のことが多い。

〈感想〉

大学に進学するうえで必要な知識だけでなく、これから生きていくうえで何が必要なのか学ぶことができた。

⑩太田さん

筆者：Y. S. さん

今回お話しして下さった太田さんは、八事日赤で看護婦として働いていらっしゃる、病院に関係する医師、看護婦、薬剤師、検査技士、栄養士などについて多岐にわたり、仕事内容などをお話ししていただきました。

看護婦としては患者さんと一番身近で接するので、患者さんが安心し、心が和めるようにお手伝いすることがプロとして荷役割りだそうです。しかし、忙しく、患者さんと接する時間もどうしても少なくなってしまうそうです。また、病院では様々な人が一緒に働いていて、それぞれがその道のプロとして、対等な立場で患者さんのお手伝いをしているそうです。そして、病院などで働くには、人間相手の仕事で、なおかつその人間が病人ということもあり、人が好きな人でないと務まらないということをくり返しおっしゃっていました。

⑪舟橋さん

筆者：M. S. さん

舟橋さんは名大附属高校の卒業生で、現在、発達に遅れのある子供を対象とした児童通園施設の館長をしています。この児童通園施設はただ児童を保護するだけでなく、芸術を軸とした発達促進に取り組んでいます。そこでやっている芸術療法の中には音楽療法と美術療法があります。音楽療法では主に楽器を使って楽しく遊ばせることを行います。美術療法では粘土で好きなものを作ったり、陶芸をしたり、好きな絵をかかせたりします。これらの芸術療法の目的は受け身で療法をうけるのではなく、自分から積極的に活動することで気持ちを開放し、心理的安定を高めるということでした。ただしここで大切なのは、子供に「指図をしない」ということで、自由に自分を表現させることなのです。指図は子供の心の安定を低めると知り、指図をしないことは子供の教育面でも大切なことだと思いました。芸術療法士が国家資格として認められていないのは、まだ日本が福祉に関して考えが遅れている証拠だと思います。日本の福祉は患者さんをできない枠の中でできないなりにしか保護していないところがあると思います。だから、舟橋さんが館長を務める恵泉館のようにできることに焦点を当てていく福祉施設がもっと充実して、日本の福祉がレベルの高いものになるといいと思いました。

夏休み前にはこの後もう一回総合人間科の時間があつた。この時間ではおもに、「ここまでの自己評価とまとめ」を行った。年度開始からわずか3カ月という短い時間であつたが、以下のように進路意識を明確に持つ生徒が少なからず現れた。

進路について考えることが多くなつた。前は将来何をしたいのかということがぼんやりしていた感じがあつた。総合人間科のフィールドワークで工学部を訪問し、話を聞いたり、いただいた資料を読んだりして自分のやりたいことが具体的になってきたと思う。みんなの発表を聞くことも参考になつたし、みんな自分の目標をもっているということを感じて、自分の励みにもなつたと思う。

心理に進みたいと本気で思い始めたのは高2の半ば。それからいくつかの文献で調べたが、直接人からお話を聞いたのが、今回の総人のフィールドワークが初だつた。運よく外部講師の速水先生も心理についてのお話で、考え方の幅が広がつた。まず、一番の収穫は心理といっても様々。カウンセラーになるためには臨床心理学科が最適であるということ。そしてかなり臨床心理士になるのは大変な事。最後に私にはまだまだ努力が必要であること。

### 7. 3分間スピーチ

夏休みが明けた9月からは、国語表現の授業とタイアップして授業を進めた。指定校推薦の選考やセンター試験の出願が始まって受験への臨場感が高まるこの時期、貴重な放課後の時間を教科の学習に専念させることができた上に、文章作成力や表現力に長けた国語科の教員の力を借りられたのは好都合であつた。

生徒はまず、小論文の執筆から取りかかつた。字数は1600字程度。内容は、①私たちがこれからの社会で直面する課題、②社会と自分の関わり、③将来の夢と自分の生き方、以上3点をポイントにすることを指示し、かなり自由に考えさせた。国語表現の時間はクラス単位で行われ、さらに担当教員は高3の学年団でない方が多かつたため細かい内容には立ち入らず、文法上の間違いなどをチェックするにとどめ、内容は総合人間科の各グループの責任教員が点検するシステムにした。小論文を書き終わった生徒から順に、次はスピーチの原稿執筆を行った。スピーチ時間は1人3分と定めてあつたため、約1600字の小論文をそのまま読むこ

とも認めたが、声に出して他人に聴いてもらうものにするためアレンジを加える生徒がほとんどであつた。

こうして10月20日の総合人間科では各グループ(17~20名)ごとに3分間スピーチを行った。各グループでは全員のスピーチ終了後に投票を行い、優れた内容であつた生徒を3名ずつ選ばせた。6つのグループから各3名、すなわち18名の生徒が代表スピーチ者として、11月17日に高3の生徒全員の前で体育館の壇上でスピーチを行った。以下にそのテーマを示す。

1	動物愛護
2	今のマンガは良くない
3	本能も理性でおさえろ
4	後悔しない生き方
5	差別
6	部活で得たもの
7	宇宙というフロンティア
8	大人になるということ
9	近未来現実的進路理想図
10	安楽死と緩和ケア
11	勝利の方程式
12	医薬分業は意味があるのか?
13	子どもの本離れ
14	宗教と日本の教育
15	教育の場における競争
16	インダストリアルデザイナー
17	美術を通して考えたこと
18	これからの社会に求められているもの

### 8. 卒業論文(研究集録)

前述の代表スピーチ大会に先立って、11月8日にLTの時間を利用して卒業論文原稿執筆の案内を行った。すでに書き上げている「小論文」や「スピーチ原稿」に書き加えることも、全く内容を変えて書き直すことも、どちらの形でも認めた。とにかく、自分のキャリアを考えたり、現在や将来の社会について述べていて、他人に不快な気を与えないものであればよいことにした。字数は小論文より大幅に増えて、1ページ約2000字を偶数ページとした。もちろん、図表や写真を付ければその分文章量は減ることになるが、締め切り日の12月15日には、下校時刻以後も残って作業する者もいたものの、ほぼ全員が提出し終えた。先に掲げたスピーチテーマ例の生徒が書いた卒業論文のタイトルは以下のとおりである。

1	日本語と外国語
2	少女マンガ考
3	自己の確立と本当の友達
4	後悔とは

5	ガーデニング
6	私の目標
7	宇宙というフロンティア
8	大人になるということ
9	THE ESSENCE
10	何処で人生を終えるか
11	さらば借り物人生
12	医薬分業には意味があるのか？
13	子供の本離れ
14	思い出してください～子供たちとの接し方～
15	あしあと achievement
16	インダストリアルデザイナー
17	美術を通して考えたことと学んだこと
18	安全と平和を守る

### 9. 座談会

高3の総合人間科は卒業論文原稿締切日の12月15日が最後であった。これ以後は土曜日3・4限目の授業がなかったためである。しかし、朝日新聞社が「総合人間科と進学先との関係話を話してもらおう座談会を開きたい」と取材を申し出てきたので、センター試験の前日の1月18日、すでに推薦入試によって進路を確定している生徒7名を集めた。座談会形式の取材は1時間以上に及んだ。そのときのメモの一部を以下に示す。

- A 君 中1から飛行機に興味を持ち、中2で飛行機を総合人間科のテーマにした。高3の6月のフィールドワークで工学部を訪問し、興味を中心は飛行機からロボットへ移った。機械航空工学科に合格したが、航空ではなく機械の方へ進むことを考えている。
- B 君 中2で藤前干潟、高1で堀川と名古屋環境事業局へフィールドワークの訪問を行った。環境と生物に興味を持ち続けたが、進学先は工学部情報学科になった。情報科学と生物との接点を見出したい。具体的にはクジラの発信器に興味がある。
- Cさん 進路決定は高3になってから。「子供と文学」をテーマとして、鶴舞中央図書館にフィールドワークを行った。推薦入試の小論文テーマは「ボーダーレス化」についてであったが、教科間の壁のない総合人間科の経験が大いに役立った。
- Dさん 医学には早くから興味を持っており、総合人間科のテーマにしていた。中2ではO-157を調べ、保健所やエーザイクすり博物館にフィールドワークした。高1では脳死を調べ、記事を書いた中日新聞の記者のところへ聞き

取り調査を行った。

- Eさん 経済学部を選んだのは人のためになる「経世家」になりたいと思ったから。経営学修士号をとりたい。大学は他では学べないことを学べる場だと思う。
- Fさん 7人中唯一高校からの入学者だが、入学時に違和感を感じたことはなかった。高3で進路について考えるようになり、保育をその道に選んだ。しかし、フィールドワークで幼稚園実習に行き、ゆき詰まってしまった。結局幅広く人間全体を考えることができる人間関係学部を選んだ。総合人間科では友人の発表を聴くのがためになった。10人の発表を聴くと10倍勉強したと感じられた。
- G 君 新指導要領の発表時から低学力化が気になっていた。高3のフィールドワークで教育学部を訪問し、小学校教師への希望をふくらませた。推薦入試の小論文のテーマは「科学のメカニズム」と「どういう授業がしたいか」であったが、総合人間科をやっていたことが役立った。

この座談会の時のメンバーのうちの4名が、2月21日に行われた中等教育研究協議会のキャリア分科会でも、大勢の参観者の前で自らの進路決定と総合人間科をはじめとする附属での活動との関わりについてスピーチした。

### 10. 併設型中高一貫校モデル校としての調査

本校は全国でも珍しい「併設型中高一貫校」である。一般的な中高一貫校は中学校入学者がそのまま全員高3まで進級する「寸胴型」であるのに対し、「併設型」の本校は高校入学段階で40名を追加入学させる点に特徴がある。今後、併設型中高一貫校は公立中・高校で増加する傾向にあるため、全国に先駆けてこのような学校で過ごした経験者としての生の声を聞かせてもらい、これから併設型中高一貫校を設立しようとしている方への指針になればと思い、高3生を対象にアンケートを実施した。

#### 《アンケート項目》

- ①あなたは名大附中出身者である はい・いいえ  
→ \_\_\_\_\_ 中学校出身
- ②名大附中出身者のみに聞きます。高校入学時に新たに40名の仲間を加えることは、どのような効果があったと思いますか。
- ③名大附以外の中学校出身者に聞きます。高校入



学時に、すでに3年間を経過した80名の集団に後から加わることをどう思いましたか。

- ④全員に聞きます。卒業を間近に控えた今、高校入学当時に感じていた気持ち（新たに40名の仲間を加えて集団を作ることにに関して）はどのように変化しましたか。
- ⑤全員に聞きます。自分の中学・高校の6年間を振り返って、「寸胴型」中等教育学校と「併設型」中等教育学校のどちらがよかったと思いますか。その理由も教えてください。

以上5問の簡単なアンケートであったが、実施時期が学年末テスト前後と大変遅かったこともあって、15名の回答者にとどまった。回答の中の主なものを示し、考察の題材にしたいと思う。

### ★アンケート結果

- ①は い（名大附中出身者） 11  
いいえ（公立中出身者） 4
- ②・40人が加わることで、新鮮な環境で高校生活をスタートさせることができたと思う。また、40人の仲間が入ることで、中学の時よりも広い視野で物事を考えられるようになった。
- ・最初は少しとまどった。どう接すればいいのかわからなかった。
  - ・カンフル剤としてよいのでは。もう少し加えてもよいのではと思う。
  - ・新しい人が入ってくることで、少し世界が広がったらしく、附属中出身の人たちの雰囲気がちよっと変わったような気がする。
  - ・偏った人間関係から脱出できた。
  - ・友達が増えることによって、視野・知識が増えた。
  - ・名大附中の人ばかりでもう3年と思ったら飽きるの、40人入ることで人間関係が少し広がったし、新鮮だったのでよかった。
  - ・多少の緊張感が得られた。
  - ・他の中学からの入学ということもあって、新しい意見を持っている友達ができた。
  - ・良い意味でのライバル意識が芽生えた。
  - ・団結する難しさを知った。
- ③・内部組の中に入っていくのは、苦労した。
- ・自分はおもしろいと思ったけど、気の小さい人は大変だと思う。
  - ・気がついてみると、周りにいる親しい友達はみんな外部生だった。母の友達（外部生）もそうだったようだが、すでにできてしまっている内部生の輪の中にとけ込みにくいところがあると

思った。

- ・附中の人たちはとても良い人ばかりで話しやすかったのがとても嬉しかった。
  - ・はじめの方は内部・外部と離されていて、とても慣れるのに時間がかかった。内部ではもう友達関係ができあがっていたから楽しそうで、中にはいるのが大変で、外部同士でかたまっていた。しかし、入学してからすぐの林間学校でちょっとずつ打ち解けることができ、2年生のクラス替えで完全に慣れることができた。これも少人数制であるからだと思った。
  - ・正直、とても辛かった。3年間も生活すれば、その結びつきはとても固くて、なかなか輪の中に入れない。(気まずい。和やかにされてもやっぱり気まずかった。) 結局、外から来た子同士がくっついてしまうという結果になった。でも、辛いのは最初の半年から1年ぐらいだった。時間がたつにつれてみんな仲良くなり、気まずさもなくなった。
  - ・名大附中出身者の中には、「余分に40人もとる必要なんてないのに！ぼくらのジャマさ！！」という考え方を持つ者もいるらしい。自分がその立場だったらそう思うかも。だって、それまでいい関係だったのがくずれるかもしれないから。そう考えると納得してしまう。
- ④・高校入学当時は、正直40人の新たな仲間とうまくやっていけるのか心配なところがあった。しかし、附中出身者のもつ考えと他の中学出身の人のもつ考えが、お互いを刺激しあってきたと思うし、とても良い関係を築いてこれたと思う。
- ・思ったより、高校からの子と仲良くなれた。でも、やっぱり心から分かり合える子は中学からの子かな!?
  - ・入学した頃は、本当になじめるのかと、とても心配だったけれど、少しずつ慣れてきて、“友達の友達”という形で、他クラスの人にも友達ができてきた。(特に高2)
  - ・今では誰とでも話せるようになり、アットホームな感覚がする。
  - ・新しく入ってくる人の中に性格がすごく悪いやつがいたらどうしようか…とっていた。
  - ・高1の自分のクラスにきた子はいい子ばかりだったし、(個性は強い人が多かったが)、担任の先生はおもしろかったし、けっこう団結したクラスだったので、附中出身の人の今まで知らなかったいいところもわかって良かった。
  - ・3年たっても外部出身の人には気をゆるせない

部分がある。外部の人が名大附のことを「うちの学校」と呼ぶと、なんか嫌な気分になる。たった3年いだけで名大附のことを知ったような口をきいてほしくないという気持ちがある。

- ・卒業を間近に控えた今、みんなと別の中学校だったということがウソのように感じられる。中学卒業の時は地元の友達と離れるから、すごく悲しい卒業式だったけど、中学からの人は高校の卒業がとても悲しくなると思う。6年間も名大附にいたのだから、3年間だけの私たちとくらべて思い出の量は倍以上あるのだからつらいと思う。でも、そのくらい名大附に愛着が持てると思う。
- ・はじめ、他の学校からきた人は、すでにできあがっている人間関係の中に入ってこなくちゃいけないので、辛そうだった。
- ・今は中学からいるとか、高校からきたとか、関係ない感じがする。
- ・何も変化がなかった。特に入学当時考えたこともないのでわからない。仲の良い子が増えるかと期待したが、残念なことに増えなかった。やっぱり6年間一緒に過ごした子と3年間だけの子とはどこがちがう。
- ・思っていたほど、40名の存在は重くなかった。40名全員と知り合えたかというところでもなく、ほとんど話さなかった人も多く、交友関係はさほど大きくなったとは思えない。どうしても附属中の人の方が同じ経験をしてきているから、解り合いやすかった。

⑤全員が「併設型」のほうが良かったと回答

- ・附中は他の公立中学とは違い、一学年に80人しかいないため、学年全員の名前と顔を覚えることができるし、多くの友達を作ることができる。しかし、80人という小さい枠でしかないし、総合人間科があるといっても80人の枠の中で考えを成長させることしかできない。だからその小さな枠に40人40色の考えをもつ人たちが入ってくることで、新鮮な考えを取り入れることができるようになると思う。実際に私は40人の仲間から多くの考えを教えてもらえたと思うし、高校に入って40人の仲間と会えて良かったと思っている。
- ・寸胴型だと6年間ずっと小さな世界にいるだけになってしまうけれど、併設型によって考えさせられることが多くなる。
- ・新しい風が吹いて、井の中の蛙にならなくてよかった。

- ・人との関係からいって、若い頃にはいろいろあった方がいい。
- ・まず、附中の教育が良く、附中の生徒の人柄が他の公立中学よりも優れていたことが、何よりこの学校全体の質を高めているもどかと思う。それに加えて、高校で新たに40名加わることで、外部生も内部生を通して良い刺激を受け、自発性や感謝の気持ちを忘れない心や、探求心というものを新たに40人、発掘してゆくことができたと思うからだ。また、内部生としても、小学校から引き続きまた6年間を過ごすのではなく、新しい出会いがあることで、また新鮮な風を吹き込むことができると思う。
- ・生徒の数が少ないので、寸胴型だと息苦しくなる。高校から新しい人が入ってきたせいか、性格が少し丸くなった人も多いと思う。3年間友達どうしでグループをつくって、くっついてきた人たちの中でも「あいつは嫌だ」とかごたごたしていたのが、新しい友達ができただけでグループが分散したりして、少し平和になった気がする。
- ・やっぱりいろいろな考え方がある（いろいろな人間がいる）ということがわかってよかった。
- ・中学から高校まで寸胴型だと6年間ずっと同じメンバーで学ぶことになり、考え方などがかたよってしまうと思う。併設型だと、いろんな考え方の人と出会うことができ、総合人間科などの話し合いがより充実すると思う。いろいろな人と出会い、社会に出る前に人間関係を学べるし、他の面でも多くのことが学べるのではないかな。
- ・新しい刺激があった方が、自分たちの世界がせまくならないと思う。総合人間科で色々な人に会うが、同世代と合う機会はほとんどない。そういった意味で、同世代の刺激があった方がよいと思う。
- ・自分の中学のころを思い返したり、低学年の子の考えを受け入れやすくするためにも、併設型がいいと思います。意見交換も、少数でやるよりも大人数でやる方がいいと思うからだ。

以上のとおり、若干否定的な意見も見られたが、併設型のほうが刺激があるとか、視野や人間関係が広がるというように好意的に評価しているようすがわかった。

(文責：佐藤俊樹)